

いっかくじゅう座

冬の星座の星々はとても明るく華やかです。オリオン座におおいぬ座、こいぬ座…。しかし、冬の大きな三角の中はどうでしょうか。ご覧になったことはありませんか？ここに「いっかくじゅう座」があります。明るい星が少なく星座を見つけるのに苦労します。それもそのはず、いっかくじゅう座は一番明るい星が4等星です。4等星は当天文台からは、条件によって肉眼で見えたり見えなかったりする明るさです。

星座に物語がある場合、その由来は紀元前までさかのぼるものが多いのですが、いっかくじゅう座は比較的新しく、ケプラーの娘婿バルチウスが設定した

新星座です。しかし、もっとずっと古くペルシアの天球儀などにもその姿が描かれているといわれています。また1690年に刊行されたヘベリウスの星図に登場するのが最初だともいわれます。いずれにしても、物語はありません。

「いっかくじゅう」は漢字で『一角獣』と書き表します。姿は馬のようで、額から一本の角が突き出ているという想像上の生き物ユニコーンです。一角獣を手に入ると大きな幸運が舞い込んでくると信じられ、実際に探し回った人がいたともいわれます。もちろん、想像上の動物なので捕まえた人はいません。

さて、いっかくじゅう座は冬の天の川の中にあります。銀河の星々がたくさん集まっており、双眼鏡で見ると、たくさんの小さな散開星団が視界に飛びこんできて楽しませてくれます。注目は通称「バラ星雲」です。図鑑にもよく登場する天体で、写真であれば赤いバラが咲いているかのようにガスが広がっている様子がわかります。残念ながら市街地では望遠鏡を使ってもガスを見るのは難しいです。写真ならではの天体と言えるでしょう。

一方いっかくじゅう座β星は望遠鏡でも楽しめる三重星です。三つの星が寄り添っている姿はきれいです。天王星を発見したハーシェルという天文学者は、このβ星を「天上で最も美しいもの」と言ったそうです。参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）

今月の見どころ星どころ

冬のダイヤモンド、火星、木星

文・浜松市天文台 喜澤 俊輔



星空クイズ

国際宇宙ステーション（ISS）は、地上約400km上空を周回しています。ISSが地球から見えるのは地上は暗く、ISSには日が当たっているときなので、日の出前と日没後の2時間くらいです。見られる日時は、ウェブサイト「#きぼうを見よう」のページで確認することができます。さて、そんなISSは高速で地球を周回しているのですが、1日に何周回しているのでしょうか。

ヒント：90分ほどで地球を1周しています。

- A 約6周
- B 約16周
- C 約26周

答えは中面へ



冬には大三角だけでなく、ダイヤモンドが光り輝きます。1等星が多い冬の空ならではのダイナミックな輝きです。オリオン座のリゲル、おうし座のアルデバラン、ぎょしゃ座のカペラ、ふたご座のポルクス、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウスを結ぶと大きな六角形ができます。これが冬のダイヤモンド、全て1等星です。今年は、この中に惑星が2つ加わります。光度マイナス2.2等の木星がおうし座に、0.2等の火星がふたご座にありま。明るい1等星ということだけでなく、それぞれの色も魅力的です。リゲルは白、アルデバランは赤、カペラはクリーム色、ポルクスは金色、プロキオンは青白く輝き、シリウスは青く、最も明るく輝きます。恒星は、表面温度によって色に違いが出ます。温度が高い順に青、白、黄、オレンジ、赤となります。オリオン座の赤色超巨星ベテルギウスや木星、火星も含めて、色とりどりの星たちが作り出すダイヤモンドの輝きが楽しみですね。

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

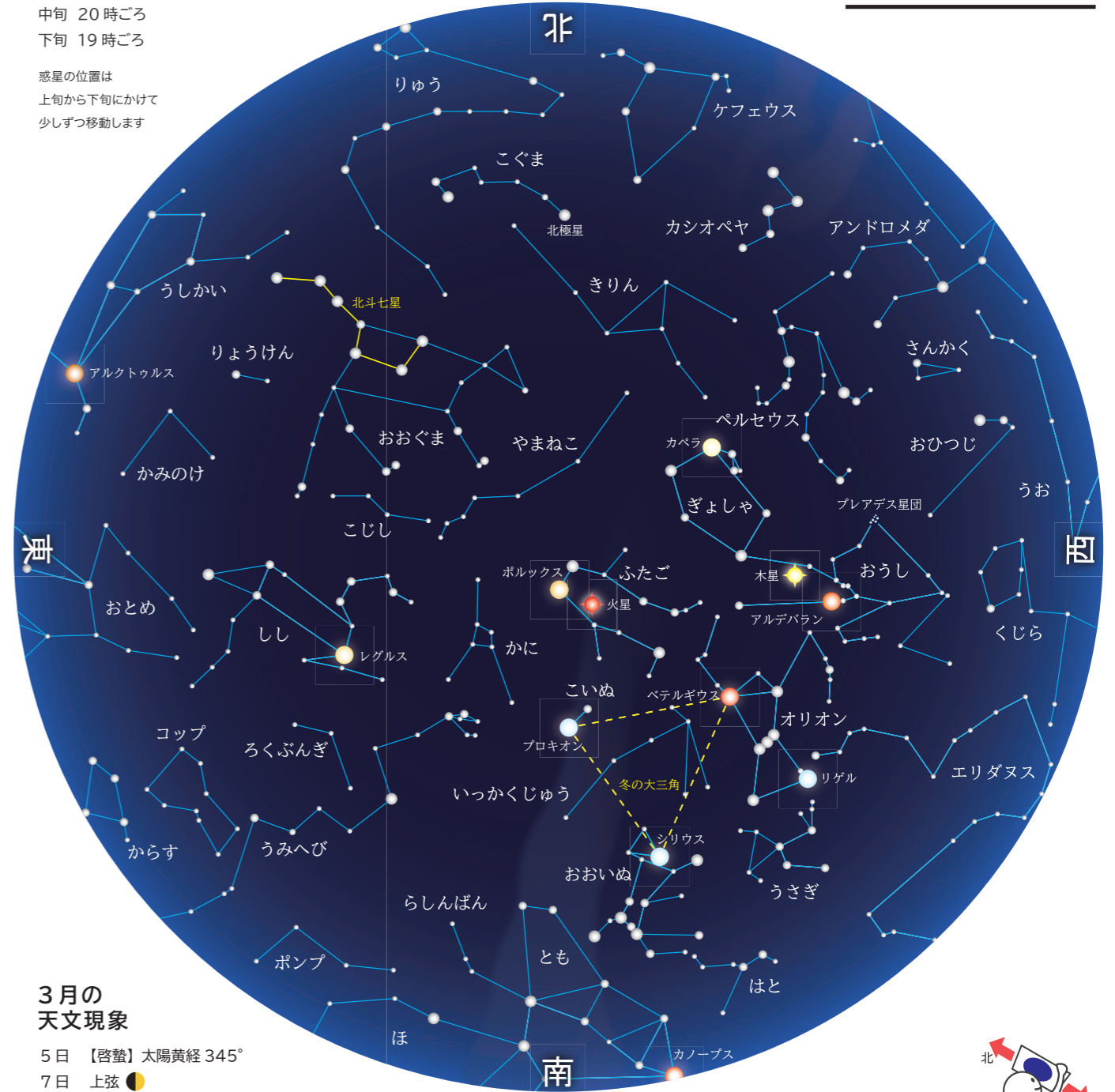
2025年3月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します



3月の天文現象

- 5日【啓蟄】太陽黄経 345°
- 7日 上弦 ☾
- 14日 満月 ☽
- 20日【春分】太陽黄経 0°
- 21日 金星が内合
- 22日 下弦 ☾
- 29日 新月 ☾

2025

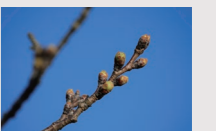
3



上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。



まだまだ寒い日もありますが、桜のつぼみが膨らむ季節になってきました。春の訪れを星空からも感じることができます。冬の星座が南から西の空に動き、東の空から春の星座が上ってきます。しし座は斜め上に勢いよく駆けているように見えます。ししの大鎌（おおがま）を頼りにしし座を探してみてください。





浜松市天文台

OK 天候不良開催 NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら



イベント情報

星空観望会、太陽・昼間の星観望会は予約優先、その他の催しは事前予約制となります。天文台ウェブサイトよりお申込みください。

3/1・8・15・22

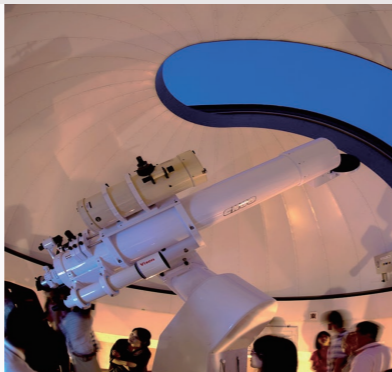
土



星空観望会 宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

時間 18:30～20:30 会場 天文台屋上 申し込み 開催日3日前の水曜 13時から受付 (30分ごとと先着20組)



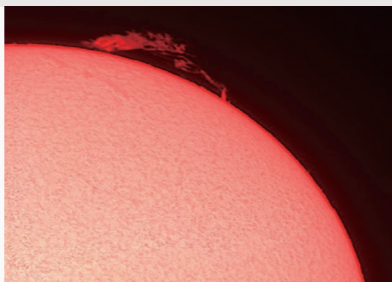
3/2 太陽・昼間の星観望会

日

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や昼間に見える天体を観望します。

NG

時間 14:00～16:00 会場 天文台屋上 申し込み 2/26(水) 13時から受付 (30分ごとと先着20組)



3/8 めざせ!望遠鏡マスター

土

望遠鏡を使って天体を見てみよう!小中学生対象の簡単な取り扱い説明と実習を行います。

OK

時間 17:30～18:30 会場 2F 講座室 申し込み 3/5(水) 13時から受付 (先着6名) 対象 小中学生



裏面のクイズの答え：正解は、B

星空を楽しむ

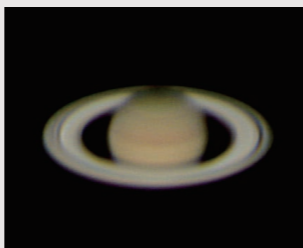
めっちゃきれいやん!

文 浜松市天文台事業協力者の会 佐々木真美
写真 浜松市天文台事業協力者の会 西岡毅

私が小学4年生くらいの頃、父の望遠鏡で毎日星を見ていました。知識もなく、とにかく肉眼で見ては望遠鏡で覗くということを繰り返していました。遠くにあるはずの星が目の前まで来てくれて、まるでファッションショーでも見ているかのような感覚でした。そんな時、突如目の前に土星が現れたのです。図鑑でしか見たことがなかっ

たし、なんとなく、特別な場所と特別な設備がないと見ることができないと思い込んでいた私。まさか見られると思っていなかったのもう大変。衝撃と感動のあまり、「めっちゃきれいやん!!」と大興奮で、両親を呼びに行行ったことを今でも覚えています。

その時と変わらず空を煌びやかに彩る星々。その星を見て、「きれい」と思える心を持った人間として、この奇跡の地球に生きていられることを考えると、そこには感謝しかありません。私はこれからも星を眺めます。そして必ずこう思うのです。「めっちゃきれいやん♪」



浜松科学館

プラネタリウム番組情報

春季(3/20～4/6)は土日祝と同じプログラムとなります。

blog

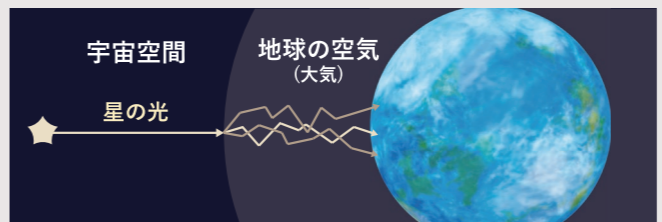


プラネタリウム	プラネタリウム	キッズプラネタリウム	大型映像
まわる星と、かわる季節 季節はなぜ変わるの?見える星座が変わるのはどうして?夏があつくて、冬がさむいのはなぜ?カギを握るのは地球の“回転”です。かわる季節と、まわる星の関係をご紹介します。	星空マルシェ ～解説員による星空解説・宇宙の話～ 気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。今夜の星空や話題の天文現象などをお話します。	きらきら こんやのおほしさま 今夜空を見上げると、どんな星や星座が見えているかな?みんなでいっしょに星を見よう!	すみっこぐらし ひろい宇宙とオーロラのひかり 土日祝・春季 13:15～13:55 15:50～16:30
～4/13 (土日祝・春季は11:30～12:25も投映)	14:30～15:25 (平日 15:50～16:30 (春季は大型映像の投映となります))	土日祝・春季 10:30～11:05	夜科学館 特別投映 高校生以上限定 3/14 18:00～18:40 19:00～19:40

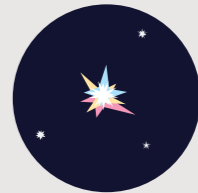
星のまたたき

今月の空はとても豪華で、なんと10個も一等星を見つけれられます。一等星は全部で21個しかないので、およそ半分が見えることになります。これらの一等星は「恒星」という種類の星です。そんな一等星をよく見てみると、明るくなったり暗くなったりして見えます。いわゆる「星のまたたき」です。

星の光は広い宇宙空間をまっすぐに進んで地球に届きます。地球のまわりにある大気を通るとき、風のような空気の動きによって光の通り道は曲がったり、散らばったりします。その結果、私たちの目に届く星の光の量が少しずつ変わっていくので、星がまたたいて見えるのです。特に、地平線から近い、空の低いところに見える星は、空気を通り抜けてくる距離が長くなるので、またたきが激しくなります。今月だと、昇ってきたばかりのスピカやアークトゥルス、沈む前のアルデバラン、リゲル、シリウスなどがよくまたたきそうです。



激しくまたたき星を見ていると、色が重なったように見えることがあります。青、白、赤... いろいろな色でキラキラして、遠くを飛んでいる飛行機が光っているのかと間違えてしまいそう。白い星の光は様々な色の光が合わさってできています。そして光の色によって、通り道の曲がり方や散らばり方が変わるので、色が重なったように見えます。プリズムと同じ仕組みですね。



またたきが激しい明るい星の見え方(イメージ)

そういえば、今月は火星、木星も一等星と同じくらい明るく輝いています。火星と木星は「惑星」という種類の星です。火星や木星を見ると、一等星とは違ってまたたいていないみたいですが、キラキラしないので、じーっと同じくらいの明るさで光っています。「恒星」はまたたかないのに、「惑星」はまたたかない。どうしてそんなことが起きるのでしょうか?... ヒントは、地球からその星までの距離です。

